

麻生副首相の妄言に抗議し、即時罷免を要求します

麻生副首相の「ナチスに学ぶ」の妄言は極めて重大です。発言を撤回するつもりでしたが、釈明は意味不明です。

一九三三年二月。日本ではすぐれた作家で共産党員の小林多喜二が治安維持法弾圧体制のもとで特高警察により虐殺された同じ時期、ドイツではナチス・ヒトラー政権自身の凶行によりベルリンの国会議事堂が放火され焼失する事件が起きました。

ヒトラー政権は、ドイツ共産党の破壊活動だと国民を欺き、二月共産党、三月社会民主党と相次いで解散を強行して「全権委任法」を制定して独裁体制を確立して、「ワイマール憲法」を死文化してしまいました。

今回の麻生副首相の妄言は歴史の真実を無視し、ナチス・ヒトラーの独裁政治を容認し、第二次世界大戦の戦争責任を罷免し、現代普遍的な歴史認識や国際的社会通念に反するものであります。

しかも、麻生副首相はナチスについてよほど思い入れが強いのか、二〇〇八年に次ぐ二度目の妄言です。

治安維持法体制の再現をゆるさず、平和と人権の二十一世紀をめざす私たち同盟は、麻生妄言に厳しく抗議するとともに、政権担当の副首相の罷免を要求します。

二〇一三年八月六日

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟中央本部

会長 柳河瀬 精

内閣副総理大臣 麻生 太郎 殿